※令和８年度以降入学生用

学校番号	2003

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	(学)数学Ｃ演習あ	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B＋Ｃ(数研出版) チャート式 解法と演習 数学Ⅲ＋Ｃ(数研出版) リピート数学Ⅲ＋Ｃ(数研出版) スタディアップノート 数学Ⅲ＋Ｃ(数研出版)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

半期で単元の様々な演習をするため、しっかりと予習・復習をすること。特に既習分野の復習をすることで演習の効率を上げることができる。受験をイメージして、予習や復習などプラスアルファの学習もすること。

2　学習の到達目標

基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
・基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身につけている。
・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。
・数学的知識を用いて事象を表現する良さを認識し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、積極的に評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	統計的な推測・複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

※令和８年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	統計的な推測	データから母集団の平均や割合を推定し、区間推定や仮説検定を用いて統計的に妥当な判断を行う基礎的手法と標本調査の考え方を体系的に学ぶ。	a: 既習内容の概念や原理・法則を体系的に理解させる。事象を数学的に表現・処理できるようにする。 b: 既習内容をもとに、目的に応じた式変形や条件を適切に利用できるようにする。 c: 数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできるようにする。	定期考査 口頭試問	定期考査 口頭試問	課題 小テスト
	複素数平面	複素数平面を用いて複素数を図表示し、複素数の実数倍、和、差、積及び商の幾何学的な意味を理解できるようにし、図形の移動などと関連付けて複素数の演算などの意味を考察する力を養う。	a: 既習内容の概念や原理・法則を体系的に理解させる。事象を数学的に表現・処理できるようにする。 b: 既習内容をもとに、目的に応じた式変形や条件を適切に利用できるようにする。 c: 数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的根拠に基づいて判断しようとしたりできるようにする。	定期考査 口頭試問	定期考査 口頭試問	課題 小テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度